

第4回公安委員会定例会開催状況

1 開催日時

令和8年2月12日（木）13時30分～16時30分

2 決裁事項

(1) 免許の取消し等

警察本部から、免許の取消し等について報告を受け、決裁した。

(2) 苦情の受理

警察本部から、苦情の受理について報告を受け、決裁した。

(3) 公安委員会規則の一部改正

警察本部から、公安委員会規則の一部改正について報告を受け、決裁した。

(4) 特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長

警察本部から、特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長について報告を受け、決裁した。

(5) 特定抗争指定暴力団等の指定延長に係る報告徴収の実施

警察本部から、特定抗争指定暴力団等の指定延長に係る報告徴収の実施について報告を受け、決裁した。

(6) 警察職員の援助要求

警察本部から、警察職員の援助要求について報告を受け、決裁した。

3 報告事項

(1) 受験期における痴漢事犯対策の実施状況

警察本部から、

- 近年の受験期において、SNS上で痴漢事犯をあおり、唆す内容の不適切な書き込みが公然と行われている状況を踏まえ、受験生の安全を確保し、安心感を与えることができるよう痴漢事犯の撲滅に向けた対策を実施した。
- 広報啓発として、1月16日（金）、JR岡山駅東口において、大学生ボランティアらと協働して、痴漢被害時の対応等を紹介するチラシを配布するなどしたほか、各警察署においても広報啓発活動を実施し、県警察公式Xにより、痴漢被害防止に向けたイラストやメッセージを発信した。
- 警戒活動として、大学入学共通テスト当日となる1月17日（土）及び18日（日）の2日間、県内10か所の受験会場周辺、主要な駅等において、制服警察官等によ

る街頭活動を行った。また、両日の朝、鉄道警察隊員がJR岡山駅構内等で警戒に当たったほか、受験生が多く利用する列車に警乗した。そのほか、サイバーパトロールで発見した、痴漢の実行をあと、唆す投稿に対して、返信機能を活用した警告を実施した。

- 今後の取組として、受験期間中における会場周辺での警戒活動、SNSへの不適切投稿に対する警告を実施していく。

旨の報告を受けた。

委員が、

「サイバー犯罪はいろいろな手口が出てくるため、今後も継続的にサイバーパトロールをお願いしたい。

被害に遭うなどしたときは、ハレノポリスのブザー機能を活用していただきたい。」

旨を発言した。

(2) 重要事件認知・検挙状況（1月）

警察本部から、

- 令和8年1月中の重要事件認知件数は11件と、前年同期比3件減少、検挙件数はタクシー強盗事件、持凶器強盗事件及び殺人事件等8件と、前年同期比4件減少した。
- 検挙率は72.7%で推移している。

旨の報告を受けた。

委員が、

「岡山でも物騒な事件が多く発生していると感じる。罪を犯せば捕まるということを知らしめることが、防犯のために重要だと思う。

県警が一体となることで、検挙につながっていると感じる。」

旨を発言した。

(3) 交通事故発生状況（1月）

警察本部から、

- 暫定値であるが、令和8年1月末の総事故件数は4,152件と、前年同期比192件増加、そのうち人身事故は393件と、前年同期比30件減少した。
- 1月中の交通事故による死者数は6人と、前年同期比3人増加した。1月中の死亡事故の特徴として、3件が交差点における安全不確認が原因の事故であったほか、3件が単路における車線逸脱による一方的過失事故であり、そのうち2件2人がシートベルト非着用であった。
- 交通死亡事故対策として、1月15日（木）、岡山市内の5警察署が一斉に、ドライバーに対し、薄暮・夜間時間帯のハイビーム励行を呼び掛ける街頭活動を実施したほか、倉敷警察署の交通死亡事故現場における街頭啓発の実施、県下全域の交通情報板やSNSを活用した運転者に対する注意喚起を実施した。
- 今後の取組として、交通事故分析結果及び交通事故発生実態に即した各種取組の推進による交通事故抑止対策を講じるほか、自転車の反則通告制度適用を踏まえた周知活動を徹底していく。

旨の報告を受けた。

委員が、

「ハイビーム励行の呼び掛けなど、交通事故の分析結果に基づいた啓発活動を実施することは素晴らしいと思う。全席シートベルト着用についても周知に努めていただきたい。

白バイが交差点で駐留監視している姿を見かける。交通事故防止に効果があるため、今後も継続していただきたい。」

旨を発言した。

(4) 令和7年中の岡山市治安概況

警察本部から、

- 令和7年末までの数値目標は、刑法犯認知件数が4,000件以下、人身交通事故件数が1,300件以下となる。
- 刑法犯認知状況について、認知件数は4,959件と、前年比18件増加、県全体における岡山市の割合は48.3%と、前年比2.5ポイント低下、多発した5罪種のうち、自転車盗、器物損壊及びオートバイ盗が増加した。
- 自転車盗難被害状況について、自転車盗の認知件数は1,746件と、前年比44件増加、県全体に占める岡山市の割合は58.8%と、前年比0.2ポイント上昇した。駅や大学周辺のアパート・マンション等での被害が多発し、無施錠による被害が74.5%と、前年比0.2ポイント上昇、被害者の59.6%が学生と、前年比2.2ポイント低下した。
- 特殊詐欺認知状況について、認知件数は130件と、前年比38件増加、うち高齢者の被害は72件と、前年比31件増加、被害に占める高齢者の割合は55.4%と、前年比10.8%増加した。被害金額は約6億5,080万円と、前年比約3億3,500万円増加、うち高齢者の被害が約4億8,240万円と、前年比約2億6,490万円増加した。被害件数、金額ともにオレオレ詐欺が最多であり、80件、約3億7,590万円であった。
- SNS型投資・ロマンス詐欺認知状況について、認知件数は、SNS型投資詐欺は52件と、前年比15件増加、SNS型ロマンス詐欺は43件と、前年比16件増加した。被害額は、SNS型投資詐欺は約7億5,670万円と、前年比約1億2,760万円増加、SNS型ロマンス詐欺は約4億2,830万円と、前年比約1億5,390万円増加した。
- 少年非行状況について、検挙・補導人員は290人と、前年比56人増加、学識別では中学生が最多で116人と、前年比43人増加、罪種別では万引きが最多で75人と、前年比12人増加した。
- 防犯ボランティア団体の状況について、団体数は365団体と、前年比10団体減少、構成員は1万8,528人と、前年比1,667人減少した。
- 人身交通事故発生状況について、人身交通事故件数は2,155件と、前年比125件減少、死者数は9人と、前年比11人減少した。
- 自転車による交通事故状況について、自転車乗用中の交通事故死者数は2人と、前年比1人減少、自転車乗用中の交通事故死者のうち用水路等への転落はなかった。自転車に関係する人身交通事故件数は579件と、前年比26件減少、自転車が第1当事者となる人身交通事故件数は111件であり、事故要因の最多は「一時不停止」、「前方不確認」の各24件であった。
- 高齢者の交通事故状況について、高齢者の交通事故死者数は6人と、前年比3人減少、高齢者が関係する人身交通事故件数は704件と、前年比98件減少、高齢者が第1当

事者の人身交通事故件数は507件と、前年比57件減少した。
旨の報告を受けた。

委員が、

「防犯ボランティア団体について、地域活性化の長期低落傾向と類似した状況だと思
う。高齢者の比率が上昇していく中、何らかの対策を講じるタイミングを迎えている
と思う。

少年非行問題等、安全・安心の岡山は、県警察だけで実現できるものではなく、行
政等と連携を図ることが不可欠であるため、協力体制が取れるよう努めていただき
たい。」

旨を発言した。

(5) 人事案件

警察本部から、人事案件について報告を受けた。

(6) 内部公益通報

警察本部から、内部公益通報について報告を受けた。

(7) 令和8年度当初予算案概要

警察本部から、令和8年度当初予算案概要について報告を受けた。

(8) 遺失物コールセンター（仮称）の試行運用実施状況

警察本部から、遺失物コールセンター（仮称）の試行運用実施状況について報告を受けた。

(9) ストーカー規制法に基づく禁止命令等の実施結果

警察本部から、ストーカー規制法に基づく禁止命令等の実施結果について報告を受けた。

(10) 特殊詐欺等の被害防止に関する協定の締結

警察本部から、特殊詐欺等の被害防止に関する協定の締結について報告を受けた。

(11) 山陽広域捜査隊訓練の実施結果

警察本部から、山陽広域捜査隊訓練の実施結果について報告を受けた。

4 次回公安委員会

令和8年2月26日（木）13時30分から開催予定